



間税しながわ

90号



品川区立品川歴史館：所蔵

東都名所 海案寺紅葉ノ図 (とうとめいしよ かいあんじもみじのず)

歌川広重 (初代) 天保3～4年 (1832～1833) 頃

海晏寺は江戸随一の紅葉の名所といわれています。境内には紅葉茶屋が設けられ、広大な庭を散策する人々で賑わいました。

品川^{さめず}鮫洲^{ふだらくさん}の補陀落山海晏寺は紅葉の名所として、晩秋の頃になると遊客が訪れて賑わいました。境内の紅葉を楽しむ母子づれの姿が描かれています。海晏寺は、東海道第1番目の宿場町・品川にあり、江戸随一の紅葉の名所として有名な寺院です。品川の漁師の網にかかった鮫の腹中から観音像が出てきたことから、建長3年(1251)、時の鎌倉幕府執権・北条時頼が同寺を建立してこれを祀^{まつ}ったのが始まりとされ、鮫洲という地名の由来の一つにもなっています。

10月は神無月^{かんなづき}の名前のおり、神々が出雲へ行って不在のせい、江戸の町では祭礼も少ないこともあり、人々の足は紅葉の名所に向かったようです。海晏寺の広大な庭には紅葉茶屋が設けられるなど、日帰りできる行楽地として多くの人で賑わいました。

品川間税会

品川間税会は、消費税完納運動を推進しています。